

# 2023年度ESD業務 実施報告資料

2024年2月6日  
第2回 ESD/EPO運営委員会

# 主催イベントの開催について

# 2023年度中部地方ESD活動支援センター主催イベント／実績と予定

区分	エリア	設営	開催時期	テーマ・内容案	登壇者／関係者等の想定	
ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラム	愛知県 名古屋市	ハイブリッド	9/21	◆ 中部の地域ESD拠点の活動情報共有と意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域ESD拠点</li> <li>● 話題提供:加藤 隆弘先生(金沢大学)、鬼頭学(緒川小学校)他、コーディネーター:古澤礼太(中部大学)</li> </ul>	
SDGs学生サミット	-	配信公開	2/10	◆ ユースに対するSDGs活動交流を通じたESDの場の設営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SDGs関連活動に取り組む大学生チーム</li> <li>● 基礎自治体、NPO等とのSDGs取組とのコラボ</li> <li>● 総括:伊藤恭彦運営委員会座長(名古屋市立大学)</li> </ul>	
自然資産を活かしたESDダイアログ	長野県 伊那市	リアル	11/18-19	◆ ジオパーク、地域と子ども対象のESD支援手法の交流:自然を活用する人づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 南アルプスジオパーク関係者</li> <li>● 中部エリアのジオパーク関係団体、登録予定団体等</li> <li>● 講師:水谷瑞希委員(信州大学)</li> </ul>	
多様な主体の連携促進、交流機会提供	学び合いの場①	-	オンライン	8/29	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 気候変動教育とは、要件、動向に関連する講演</li> <li>◆ 講演内容を踏まえたディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「今求められる気候変動教育」 白井信雄(武蔵野大)</li> <li>● 「気候変動教育戦略の構築と構造の可視化」 佐藤真久(東京都市大)</li> <li>● (フロア発言):中部大・古澤礼太、PECとやま・堺勇人、アルマス・バイオコスモス研究所・水上聡子</li> </ul>
	学び合いの場②	-	オンライン	9/4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 気候変動教育の実践事例</li> <li>◆ 事例紹介を踏まえたディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 話題提供:中部大・古澤礼太、PECとやま・堺勇人、アルマス・バイオコスモス研究所・水上聡子</li> <li>● コメンテーター:大鹿聖公(愛知教育大学)</li> </ul>
	実践活動	愛知県 常滑市	リアル	11/25	◆ 地域社会への気候変動教育の活用:食べ物が変わる?気候変動と私たちの暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 話題提供:東海農政局、愛知県水産試験場、鬼崎漁業協同組合、杉山範子(東海学園大学)</li> <li>● ワークショップ企画構成:古澤礼太(中部大学)</li> </ul>
	SDGs 社会教育研究ワーキング	会場: EPO中部 ほか	リアル	6/14 10/24 11/24	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学び合いP検討、評価</li> <li>◆ ワークブック試行版内容検討</li> <li>◆ クローズ開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中部大・古澤礼太、PECとやま・堺勇人、アルマス・バイオコスモス研究所・水上聡子※前年度メンバーと同じ</li> </ul>

# ESD推進ネットワーク地域フォーラム（9/21）

加藤隆弘委員登壇、塚  
委員、水谷委員が参加

- 目的：ESD活動の情報共有と意見交換
- 時期：9月21日（木）13:00～15:40（ふりかえり交流～16:30）
- 対象：一般参加者、中部地方ESD拠点、関係ステークホルダー
- 開催方法：・ウインクあいち907会議室、ハイブリッド

## 参考）中部の地域ESD拠点登録団体

- ①一般社団法人 長野県環境保全協会
- ②信州ESDコンソーシアム
- ③名古屋ユネスコ協会
- ④「なごや環境大学」実行委員会
- ⑤一般社団法人日本体験学習研究所
- ⑥豊橋ユネスコ協会
- ⑦一般社団法人ネクストステップ研究会
- ⑧石川県ユネスコ協会
- ⑨岐阜県ユネスコ協会
- ⑩中部ESD拠点協議会（国連大学認定RCE Chubu）
- ⑪特定非営利活動法人 地域の未来・志援センター
- ⑫根羽村森林組合
- ⑬特定非営利活動法人大杉谷自然学校
- ⑭特定非営利活動法人エコプランふくい
- ⑮一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）
- ⑯勝山市
- ⑰富山ユネスコ協会
- ⑱一般社団法人グローバル愛知
- ⑲加山興業株式会社
- ⑳ななお SDGsスイッチ

中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム

地域づくりは人づくりです。持続可能な地域づくりに、学校との連携が欠かせません。学校と社会の連携による人づくりの機は、子どもだけでなく、大人たちにとっても大きな学びの場です。学びの場に関する様々な主体が持続可能な教育ESDを推進して活動することで、より美しく元気を地域づくりにつながります。

県庁舎と文部科学省が共同で取り組んでいるESD推進ネットワークでは、各地方のESD活動支援センター主催の交流連携事業を行っています。中部地方ESD活動支援センターでは、構成県の地域ESD拠点とともに、ESDネットワークの交流を深めるために中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラムを開催します。皆様のご参加をお待ちします。

オンライン開催・参加無料  
2023年9月21日(木) 13:00～15:50



## 第1部＜オープン開催＞

- 基調講演地域づくりと学校教育・今求められる地域のESD 加藤隆弘 金沢大学教授
- 話題提供 ①学校と地元が好きだから～地域と協働した学校教育づくり  
鬼頭学、森倫子 愛知県東浦町立緒川小学校校長 同教諭
- ②ESD・SDGsを学び合うコミュニティづくり（10分）  
池端 弘久 北陸ESD推進コンソーシアムコーディネーター

## 第2部（70分）＜オープン開催＞

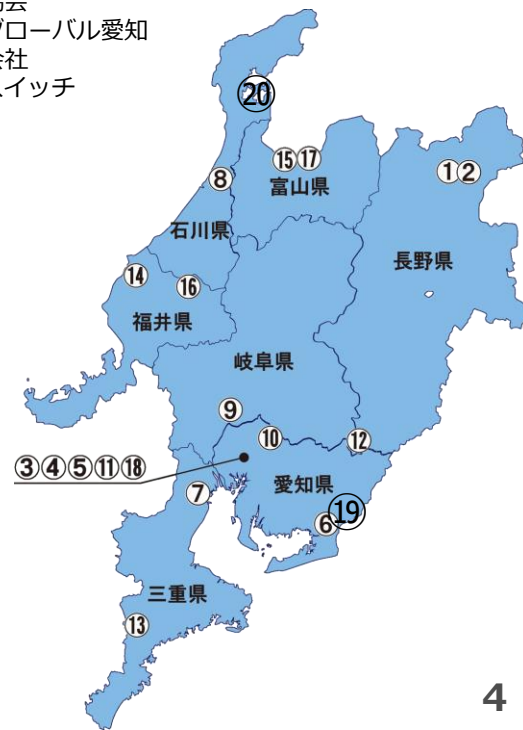
- 地域ESD拠点による事例報告～地元で！大人と子どものESD（10分×3団体）  
報告1子どもたちのESDから SDGsまちづくりに 入口 翔 ななおSDGsスイッチ  
報告2地域の自然資源を活かした学校のESD 廣田 大吾 勝山市（勝山市教育委員会）  
報告3循環型社会を担う企業から子どもたちへ 井上 智博 加山興業株式会社

## ○交流ディスカッション

コーディネーター 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授

## 第3部＜クローズ開催＞○ふりかえり交流

- ・ESD推進ネットワーク 登壇者、地域ESD拠点団体による意見交換  
コーディネーター 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授



# SDGs学生サミット (2月10日開催予定)

伊藤委員長総括、堺委員、水上委員、  
田辺委員がファシリテーター



## SDGs 学生サミット

2024年2月10日(土)  
13:00~17:30・オンライン

中部地方の学生・ユースグループ等が  
「若者にとってのローカルSDGs」をテーマに  
オンラインで取組を発表します。

### 発表団体 順不同

- ▶ 中部大学 ESDエコマネージャーチーム
- ▶ 岐阜大学 G-amet
- ▶ 松本大学
- ▶ 金沢星稜大学
- ▶ 静岡大学 (招待)

### 一般参加 申込不要

- ▶ 当日 YouTubeライブ配信を視聴できます。
- ▶ 視聴URLは web ページに掲載します。



ハブとなる中部大学中部高等学術研究所  
デジタルアースルーム

### プログラム

- 第1部 団体発表  
若者にとってのSDGs～学習活動等の取組紹介や展望～  
▶ 中部地方に所在する大学等の学生・ユースグループ  
が、SDGsの取組・活動について発表を行います。
- 第2部 話題提供  
地域のSDGsの取組～自治体のSDGsの取組について～  
▶ 中部地方のSDGs未来都市に選定されている基礎自治体  
の担当者から、施策や取組をご紹介します。
- 富山県南砺市 (2019年度選定)
- 岐阜県美濃加茂市 (2021年度選定)
- 長野県上田市 (2022年度選定)
- 第3部 パネルディスカッション  
ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できること！  
進行：原 理史 (中部地方ESD活動支援センター)  
総括：伊藤 恭彦氏 (名古屋市立大学副学長、ESD/EPO  
運営委員会 座長)

Webページ ▶



### コア参加

ユース・学生

SDGs活動に関心のある学生

自治体職員

SDGs施策実施中の自治体



主催：中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部内)  
協力：中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター 問題複合体を対  
象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

# 自然資産を活かした地域・人づくりESDダイアログ

## <南アルプスジオパークESDダイアログ> (11月18~19日開催)

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク ESDダイアログ 2023

### ～自然を活用する人づくり～

2023年11月18日(土)～19日(日) @ 南アルプス(中央構造線エリア) ジオパーク

悠久の地球を体感できるジオパーク。生物と文化の多様性を育む大地を通じてESD;持続可能性教育を自然の基(もと)から考えるダイアログ(対話の場)を開催します。  
様々なESD学習活動に携わる皆様はもちろん、自然やSDGsにご興味のある方、参加をお待ちしています。

**1日目 ESDダイアログ**

日時 11月18日(土) 13:30-16:30

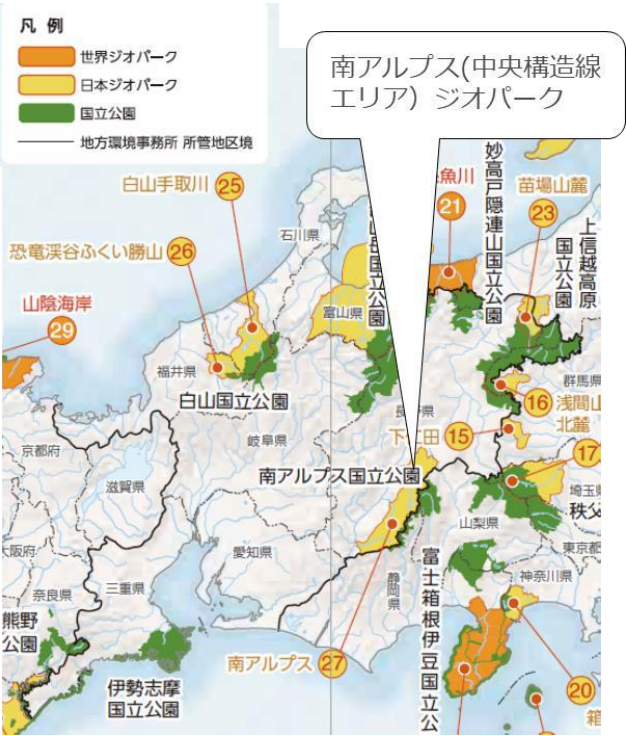
会場 伊那市生涯学習センター 5階 研修室  
長野県伊那市荒井3500番地1

**2日目 エクスカーション**

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの見学

日時 11月19日(日) 8:30-14:40

出発/解散 JR伊那市駅前



**プログラム**

**第1部 基調講演**

「国立公園とジオパーク～自然の保全と活用の今」  
石橋岳志氏(環境省伊那自然保護官事務所)

「自然資本を活かした地域創生とESD」  
水谷瑞希氏(信州大学教育学部助教)

**第2部 活動報告**

伊那市長谷中学校の取組  
「地域で“食”を支える 過疎地の小規模校の挑戦」  
伊那市立長谷中学校2年生のみなさん

飯田市の高大連携の取組「遠山郷エコジオパークフィールドスタディ」  
田開寛太郎氏(松本大学専任講師) 工藤太陽氏(田開研究室所属)

大鹿村の無形文化財継承の取組:南アルプスの大鹿歌舞伎  
佐合礼文氏(大鹿村教育委員会)



**第3部 パネルディスカッション**

**パネリスト**

立山黒部ジオパーク 専門員 森内裕之  
 白山手取川ジオパーク 日比野 剛  
 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク 町 澄秋  
 南アルプス(中央構造線エリア) ジオパーク  
 小澤 恵理  
 環境省伊那自然保護官事務所 石橋岳志

**コメンテーター**

信州大学教育学部助教 水谷瑞希

各地のジオパークの取り組みを発表するパネリストら

## 身近な自然 どう活用

ジオパーク 伊那で「ESDダイアログ」  
 魅力再認識

伊那市を含む「南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク」をテーマに、さまざまな立場の人たちが意見交換したり、ジオパークの魅力を再認識したりする「ESDダイアログ」が18日、同市の生涯学習センターであった。基調講演、活動報告、パネルディスカッション(中央構造線エリア)ジオパークの生徒や専門家、他地域のジオパーク関係者が身近な自然活用の在り方を模索。ジオパークを切り口に持続可能な社会をつくる人づくりを目指す試みで、環境省と文科省が共同で設置する中

部地方ESD活動支援センターが主催。各地のジオパークを会場に開いて6年になる。ESDは持続可能な開発のための教育を指す。パネルディスカッションでは、中部地方にある四つのジオパーク、環境省、信州大学の関係者が登壇。南アルプ

自然資本の活用方法として「多くの山岳観光客が来るので、付き添いのガイドにジオパークの魅力を伝える」などの提案があった。専門関連の特徴としては、住居や子どもたちが協力して地域の課題や今後の暮らしの在り方を模索している活動も多かった。ジオパーク全体が持つ可能性にも言及があり「自然資本によって育まれた文化景観が豊かに関わる人たちのつながりも豊かなので、同じ方向を向いて地域アイデンティティの確

立派に生かすのではという指摘があった。(小坂和史)

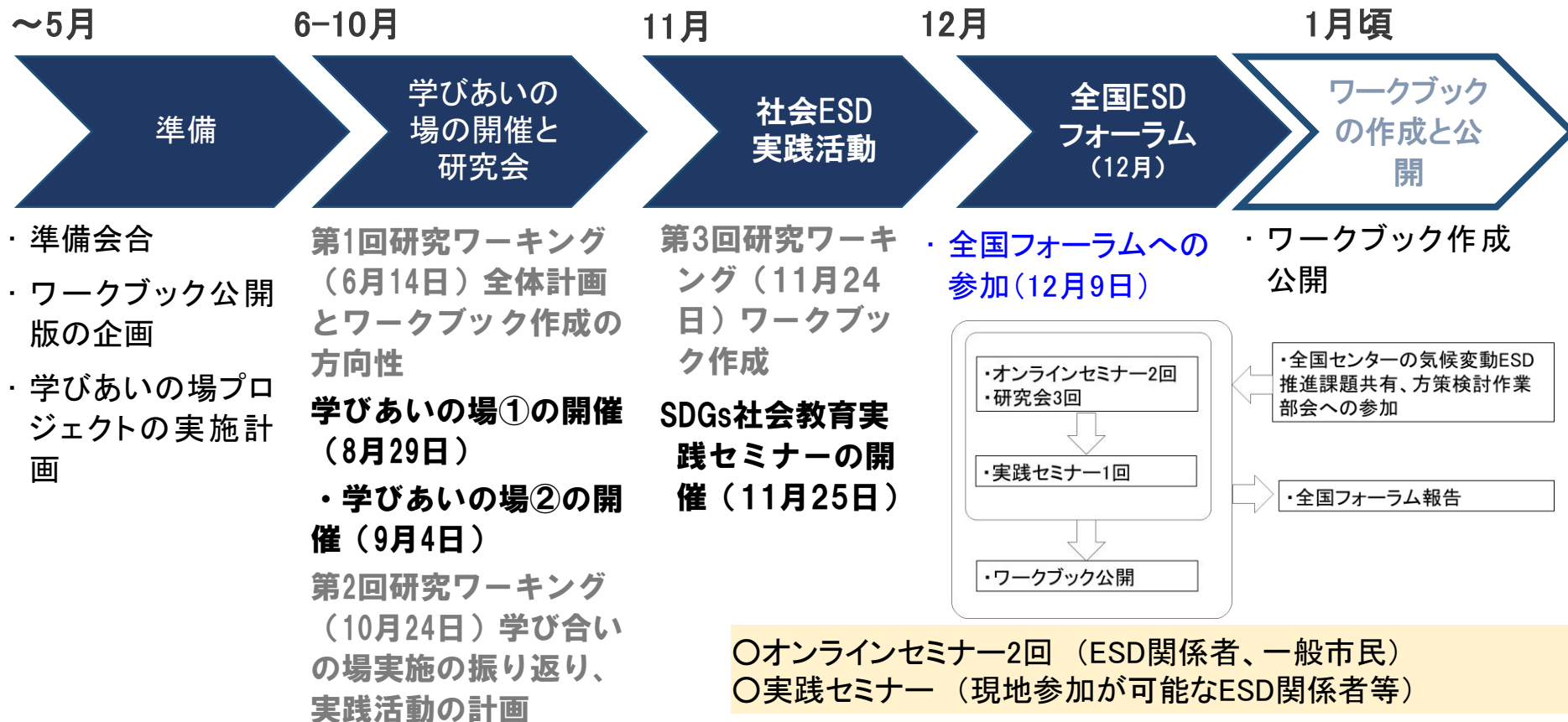
**長野日報**  
2023.11.20

用其輔刊用原 FAX(0265)73-9352

多様な主体の連携促進、交流機会提供

# 地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育

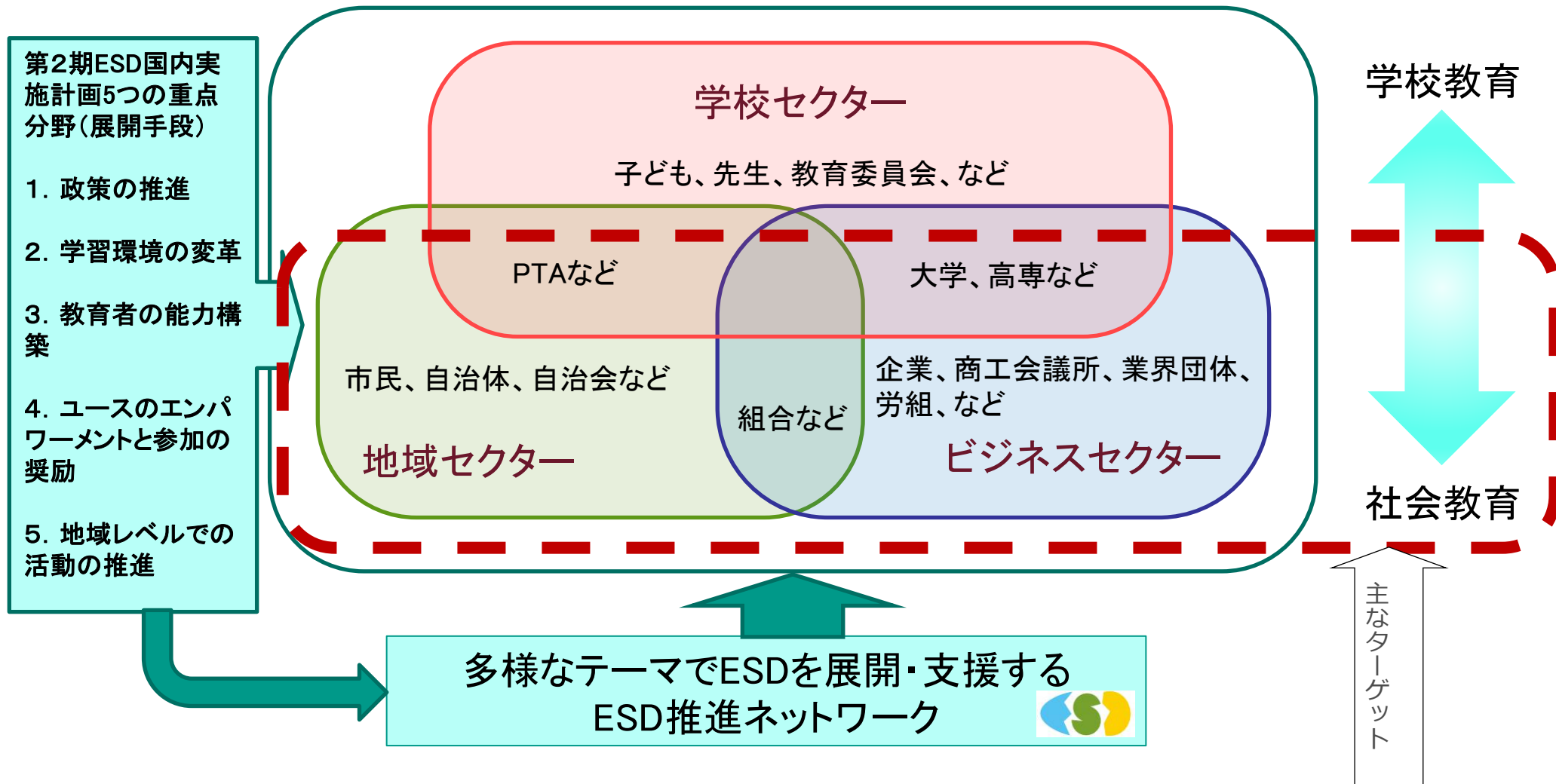
気候変動時代のESDを促進するためにESD推進ネットワークで注力する気候変動を切り口とし、地域の状況やニーズに応じたテーマを定めた学び合いの機会を提供することを目的とした「2030学びあいプロジェクト」を企画する。中部地域の学び合いプロジェクトでは、過年度に続き「ローカルSDGsのためのESDの社会実装」を目指すこととする。



古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長  
 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表  
 堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長  
 原理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員  
 【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課 【事務局】清本三郎 EPO中部統括



# ESD推進ネットワークの「今後の方向性」における ワークブックターゲットイメージ



環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター

現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック (企業研修／生涯学習／地域づくりSDGs社会教育・学び合いヒント)

# 学び合いの場①気候変動教育とは (8月29日開催)

## 白井：今求められる気候変動教育

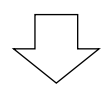
人間社会に変容を迫る気候変動

社会変容・政策転換に至るための環境教育

気候変動の地元学・人と社会を創るESD

### 気候変動教育の要件

- ①SDGsと気候変動対策を両立させる理想の社会のための教育
- ②社会転換のための思考を見につけ、革新を生み出し、先駆けて実践できる人の育成
- ③異なる価値規範を乗り越える対話と共創を生み出す教育
- ④緩和策と適応策（さらに両立策）、技術対策と根本対策を体系的にとらえる教育
- ⑤地域の気候変動政策の実践と連動する教育システム
- ⑥発達段階にあわせ、現場の教員が取り込める教育カリキュラム



市民主導の社会の構築を目指す参加  
(アーンスタインの「参加のはしご」)

安易な実践からの脱却・知性の転換

### 規範的アプローチ例

哲学的対話・気候変動市民会議

### 実践的アプローチ例

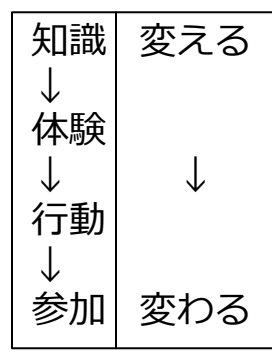
「岡山市における持続可能なカーボンゼロ社会への道づくり」大作戦

## 佐藤：気候変動教育戦略の構築と構造の可視化

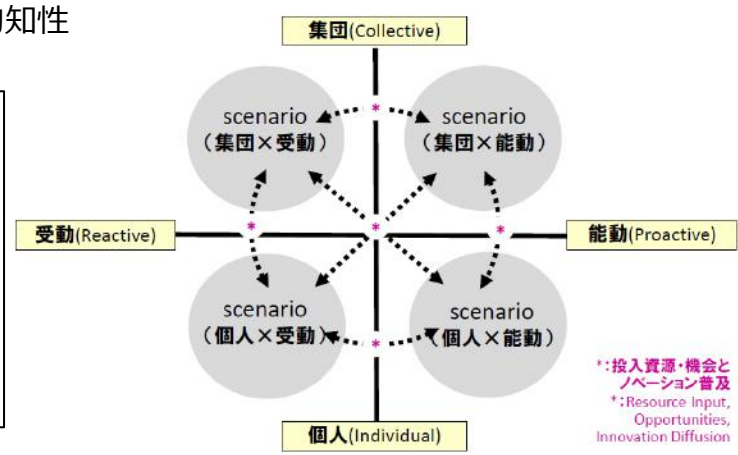
VUCA (Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)) の世界

人づくり=ESD=地域づくり(社会づくり)

8つのキーコンピテンシー・社会情動的知性



### Models for Life Style Choice



### 気候変動教育・取組の可視化

		目的とする変容の対象 (フォーカス)				社会的インパクト (めざしたい状態)
		Focus 1 学習者の変容	Focus 2 教育者・実践者・組織の変容	Focus 3 ネットワークの変容	Focus 4 仕組みの変容	
つなぐ・広げる (対象領域)	学校					最終的には、社会・コミュニティの変容が目標となる
	社会教育拠点					
	ビジネスセクター					
	連携プラットフォーム 支援体 (自治体、温暖化防止センター、他)					

## 古澤：流域圏ESDと気候変動教育

中部ESD拠点「伊勢・三河湾流域圏ESD講座」  
中部ESD拠点「中部サステナ政策塾」活動

包括性、関連性、協働性のコンピテンスのために

流域全体で考えるESDの実践

例：売れない商品を選ぶワークショップ

- 課題解決⇒全方位型に
- ちりばめ、関連性重視
- フラットコミュニケーション
- 別のものを中心に置く

## 堺：気候変動教育としての流域治水

テーマ：流域治水

↓  
いろいろな参加の仕方の入口

↓  
地域ESD拠点の連携  
学校を超えた学び合い

↓  
セクター間の連携

ジオラマ活用  
水のめぐり体験実験  
(なりきり)

↓  
繋がりをつとめる  
異なる発想  
適応⇒自分ごと

↓  
ハザードマップ  
統合的総合的理解の促進

## 水上：次世代につなぐESDの可能性－その方法論

課題解決型のプログラム開発

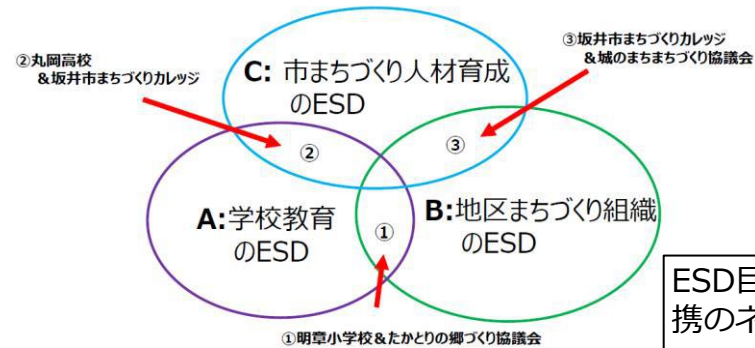
検討から実践へ  
個別課題から複合へ

A: 学校教育ESD：坂井市地球温暖化対策授業  
地域特性：緩和策、適応策学習⇒ふるさと学習：課題解決型地域づくり

B: 地区まちづくり組織 ESD：大関助け合いのまちづくりプラン策定  
ワークショップ

子どもと大人と一緒に地域の課題解決を考え活動できるプランを提案

C: 市まちづくり人材育成 ESD：坂井市まちづくりカレッジ  
緩和策・適応策⇒防災対策から地域福祉対策へ・Well Being



ESD目的の複合化と連携のネットワーク化

## コメンテーター：大鹿

課題：指導要領ではESDが伝わらない学校現場と地域協働

高校ニーズは高まりつつある：総合的学習、探究学習

↓  
地域と連携したローカル気候変動教育  
未来を見て、何が見えるかシェアすることが必要



愛知県常滑市鬼崎漁港  
鬼崎漁業協同組合会議室

2023年11月25日(土)  
10:00~16:00



## 第1部 話題提供 食の変化と気候変動 10:00~12:00

- 「森里川海からとれる食、気候変動でどう変わる？」  
井上俊樹氏 農林水産省東海農政局企画調整室長
- 「伊勢湾三河湾の水産資源の移り変わり」  
植村宗彦氏 愛知県水産試験場漁業生産研究所主任研究員
- 「農林水産業の現場から、鬼崎漁業組合」 平野正樹氏 鬼崎漁業組合参事
- 「気候変動影響と適応対策」 杉山範子氏 東海学園大学教授(オンライン)

## 第2部 昼食と現地視察 12:00~14:00

～海苔養殖関連施設等の見学、昼食(各自実費支払)～

コーディネーター：古澤礼太氏 中部ESD拠点・サステナ政策塾

## 第3部 ワークショップ 14:00~16:00

「食」から学ぶ気候変動適応のSDGs地域づくり

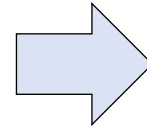
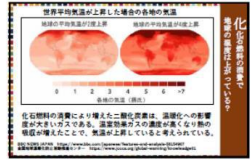
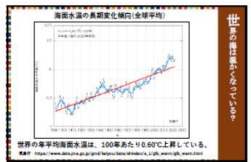
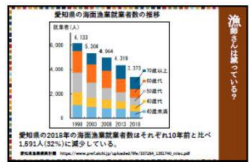
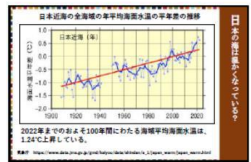
総合ファシリテーター：古澤礼太氏 中部ESD拠点・サステナ政策塾

# システム思考！ ミステリーカードによる構造図の作成

ミステリーカード5種 (のり、あさり、しいたけ、あゆ、ぶどう)



ファクトカード全27枚のうち6例



## ワークブック作成のためのSDGs社会教育ペルソナワークショップ

- より具体的に考えていくために～ユーザーの本音を踏まえてSDGs社会教育のイベントの企画実施シミュレーションワークショップ

## 【概要】

ワークブックのニーズを検討するため各人が疑似ペルソナを持ち架空の打合せを行う

- 配役と役割：4人で構成、A～Cの3人が議論、ファシリテーションと記録はDが担当  
A：当事者、B：上役、C：当事者の同僚、あるいは関係者、D：コンサルタント
- シチュエーション  
コンサルタント（D）を交えてSDGs社会教育のイベントの企画の打合せをする。
- コンサルタント（D）は以下の観点をもとにニーズを抽出して事業企画につなげるブレーストーミングを行う。

## シナリオ1

問題意識のある企業  
の担当者

## シナリオ2

地域の公共施設で住  
民へのアウトリーチ  
を命じられた担当者

## シナリオ3

課題を抱えている自  
治会の役員

# SDGs社会教育実践ツール「中部版ESDワークブック」の作成（参考資料1参照）

- 3カ年度に渡り展開したESD学び合いプロジェクトの成果として有識者のWGの検討をもとに冊子「ESDワークブック」を2023年度に作成している。
- ミステリーワークショップ、ジグソー法ワークショップをはじめ、実践セミナーで実施したワーキングの方法などを掲載している。

## 【実施結果】

- 有識者で構成するWGを年3回開催。2023年度のWGでは企業、行政、市民団体でのESD普及のハードルを下げるためにペルソナワークショップ検討を実施。
- 外部の学識者の提言を受け、地域づくり＝人づくりの観点から、「地域」を意識したESD展開を構成。
- 持続可能な社会のための人づくりのビジョンを示すためユネスコのキーコンピテンシーの概念を導入。
- ESD実践を具体的に手助けするため「人」、「こと」、「もの」、「金」の観点を導入した企画用ワークシートを掲載。
- 2023年12月9日全国フォーラムのパネル展示で見本を展示、好評を得る。



# ESD推進ネットワーク全国フォーラムで紹介、発表

ESD 活動支援センター  
Education for Sustainable Development



## ESD推進ネットワーク全国フォーラム2023 気候変動を切り口としたESDの意義とひろがり ～地域における場づくり・仕組みづくり～

ESD推進ネットワーク全国フォーラムは、ESD推進ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集いESDに関する最新の**国際動向、国内動向、ネットワーク形成の状況**を共有するとともに、全国各地の実践事例を学ぶ機会として開催しています。  
今回は、**気候変動を切り口**に地域課題の総合的かつ包括的な解決を目指す実践人材育成に取り組む事例や全国規模のネットワーク団体による取組について理解を深め、相互の交流を通して新たな連携・協働を生み出すことを目指します。  
「ESD=SDGs実現に向けた人づくり」に関わる**学校・団体・企業**など、**全国各地**から多くの方々の**ご参加**をお待ちしています。

日時：2023年 **12月9日(土) 10:30～16:00**

会場：**国立オリンピック記念青少年総合センター  
国際交流棟国際会議室**  
(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

参加費：無料



参加者  
募集!!

参加ご希望の方は、ESD活動支援センターウェブサイトから申込フォームに入り、必要事項をご記入ください。

※会場にて団体等の取組をご紹介いただけるポスター展示の出展者も合わせて募集します。詳細はウェブサイトをご覧ください。



<申込フォーム>

主催 ESD活動支援センター、文部科学省、環境省  
協力 ESDを推進する全国・地方の組織・団体

お問い合わせ

ESD活動支援センター  
TEL:03-6427-9112

<https://esdcenter.jp/>  
E-mail: [contact@esdcenter.jp](mailto:contact@esdcenter.jp)

## プログラム

- 10:00 ポスター展示 ネットワーキングタイム
- 10:30 環境教育・ESD 実践動画 100 選認定証授与式
- 11:00 開会挨拶
- 11:05 基調報告 文部科学省、環境省
- 11:35 セッション1:「気候変動を切り口とした ESD の意義とひろがり」  
<モデレーター> 白井信雄さん 武蔵野大学工学部 教授
- 12:30 休憩
- 13:30セッション 2ポスターセッション形式  
ピッチ①「ESD for 2030 学び合いプロジェクト実践事例の共有」  
<報告> 各地方ESD 活動支援センター  
ピッチ②「ESD 全国ネットワーク団体の実践事例の共有」  
<報告> 開発教育協会、五井平和財団、国環研気候変動適応センター、等
- 15:20全体総括:「ESD・気候変動教育の主流化に向けて」  
<進行> 飯田貴也さん(NPO 法人新宿環境活動ネット 代表理事)
- 15:55閉会挨拶(ESD 活動支援センター)





その他

# SDGsへ向けたESD推進のための教育現場の実態把握と連携強化（ヒヤリング調査）

## ① 専門家に包括ヒアリング

- 金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 加藤隆弘 准教授 2023年6月15日  
学校教育現場にいかに関係として認識してもらうか、探求学・アクティブラーニングとして普及させるかが課題。

## ② 教育部局、教育委員会、現場の教員等

- 高山工業高等学校 教頭 足立宏先生 2023年10月28日  
実業高校は授業活動で地域社会とすでに連携しており、持続可能性の観点でSDGsの取組、ESDとして位置づけし直すことができる。
- 飯田女子高等学校 教諭 小林奈津子先生（社会科） 2023年12月1日  
社会科の受験問題はシステム思考を要求する方向に変化しており、学習指導要領が反映していると考えられる。

## ③ 中小企業の経営等

- アドバンスト・ロジスティクス・ソリューションズ株式会社 総務部 人事室人材育成グループ担当 園田 渚 氏 2023年6月28日  
新入社員研修に昨年度からSDGsの講座を導入、会社でのSDGsの取組の立ち位置を確認することが必要。
- 株式会社おとうふ工房いしかわ 代表取締役 石川 伸 氏 2023年7月25日  
元々行ってきた企業理念（環境、農業、地域、食文化）にあとからSDGsが乗っかってきた。CSVとして事業自体が食を通じて地域社会や環境に貢献するのが当たり前だと思っている。

# 水谷委員からの事前の質問とご提案（参考資料2参照）

## 1. ESD活動支援センターの事業評価事例

東京都市大学の佐藤真久先生の言うESD活動支援センターの事業評価とは？

⇒気候変動教育コンセプトペーパーとマトリクス分析様式と考えられる(事務局:参考資料3, 4参照)

## 2. 文科省との連携強化

今一度、文科省との連携強化を検討いただきたい

⇒全国ESDネットワークで必要性を発信しているが、はかばかしくない(事務局)

## 3. 自然資産のESD活用

ESD-net 2030 Global meetingの中で、ユネスコ担当者から、エコパークやジオパーク、世界遺産などをESDのハブとして活用していく、との発言があり戦略的に活用していくべき

## 4. ESD事業の整理方法

ESD国内実施計画に沿って整理すると、強み・できている点と、弱点・課題が明確になるのではないか(参考資料5参照)

## 5. ユネスコ事業との連携

文科省との連携においては、ユネスコスクールに限らずユネスコ事業との協働が鍵になるのではないか